



2026 年 8 月 12 日

各 位

上場会社名 株 式 会 社 エ フ オ ン
代 表 者 名 代 表 取 締 役 島 崎 知 格
(コード番号：9514 東証スタンダード)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 小 池 久 士
(TEL：03-4500-6450)

2026 年 6 月期通期連結業績の予想値と実績の差異等に関するお知らせ

2026 年 2 月 9 日に公表いたしました 2026 年 6 月期（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の通期業績予想と、本日公表いたしました実績に差異が生じましたのでお知らせいたします。

また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、2026 年 6 月期（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の個別業績につきましても、前事業年度の実績値と差異が生じましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期業績の予想値と実績の差異について

2026 年 6 月期連結業績と予想値の差異（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	19,500	1,400	900	630	29.78
当期実績 (B)	20,737	419	1,672	1,198	56.67
増減額 (B-A)	1,237	△981	772	568	—
増減率 (%)	6.3	△70.0	85.9	90.3	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 6 月期)	17,599	1,320	1,103	706	33.26

2. 通期連結業績と予想値の差異の理由

売上高については、電力小売事業の契約電力量の獲得が順調に進み想定を上回る実需が実現したことで大幅に超過いたしました。また、グリーンエネルギー事業における発電事業も概ね順調に推移したほか、山林事業の原木供給をグループ内発電所用燃料原材料から外部販売に一定程度切替えたため、原木の外部売上高についても当初計画を超過する結果となりました。

一方、営業利益に関しては、電力小売事業の電力仕入において日本卸電力取引所の市場価格が高値にシフトし収益を圧迫したほか、エフオン新宮発電所の燃料チップ確保に苦戦し発電出力抑制を余儀なくされたこと、また、山林事業の収量向上を企図した人員の増加に伴う経費の増加等により、当初想定した原価を大幅に超える実績となり営業利益を減少させることとなりました。

経常利益については、電力小売事業の電力仕入に係る価格変動リスクを緩和するため実施しております電力先物取引に関し当連結会計年度に実現した電力先物差益、及び未到来の限月のデリバティブ評価益を相当額計上することとなり、大幅に増加する結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加により予想値を大幅に上回る結果となりました。

3. 個別業績の前期実績との差異について

2026年6月期通期個別業績の前期業績値との差異（2025年7月1日～2026年6月30日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績（A）	4,122	657	613	28.91
当期実績（B）	8,675	1,820	1,639	77.48
増減額（B－A）	4,552	1,163	1,025	
増減率（％）	110.4	177.0	167.0	

4. 個別業績の前期実績との差異の理由

売上高は、電力小売事業の契約電力量の拡充により電力売上高が大幅に増加したことによります。経常利益は、主に電力先物取引に係る電力先物差益、及び未到来の限月のデリバティブ評価益が収益を押し上げる結果となりました。収益増加により税金費用等も増加しいたしましたが、当期純利益は前期に比較して大幅に増加しております。

以 上